



# 鷹南学園 コミュニティ・スクール委員会だより

令和2年度第2号 発行日：令和3年3月19日

発行責任者：鷹南学園コミュニティ・スクール委員会 会長 中村 裕子 編集：同委員会広報部

## 2020年それぞれの思い

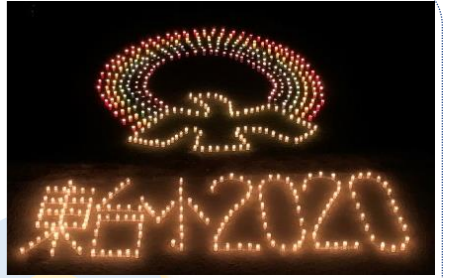
### 中原小PTA

【学校へ行こう!】の合言葉でここ数年活動してきた中での2020年はコロナ禍。すべての流れが止まってしまい、学校へ行く機会がなくなりました。子どもたちの元気な姿や楽しそうな笑い声が聞けず、寂しく残念な1年となりました。それでも年度初めにPTA活動を始めていく上で、【2020 できることから】と保護者に呼びかけました。「時代の変化を受け入れながら、子どもたちや私たち大人自身のために“できることから”やっていきましょう!」と。



WITH コロナと言われていた中で、この先未知数なところもありますが、柔軟に対応可能な、かつシンプルなPTAでありたいと思っています。多くの保護者や地域の方に、中原小学校にたくさん足を運んでいただける日が一日も早く訪れることを願って止みません。

2020年度は活動がほとんどストップしている中、青少対・交通対・おやじの会との三者協合同お楽しみ会でのランタンアートのみ決行することができました。表した虹は、多様性にこだわる証、ひとつひとつの揺れる灯は、希望を表しています。形は変わりつつも、来年度子どもたちの笑顔いっぱいになるように、何か楽しいことを企画していきたいと思っています。また、コロナ禍である今、PTAの意義を考え、見直しを行う大切な期間にもなったと思います。今後も、大人も子どもも心健やかに過ごせるよう、また楽しい活動にしていこうなわくわくする時間を大切にしたいと思っています!



### 東台小PTA



### 五中PTA

今年度の五中PTAは保護者の意識がPTAから離れつつある現状を踏まえ、委員の整理・統合、活動内容の見直しをしました。中学校PTAの抱える問題は、「もう中学生」と考える保護者が増えて、親の手と目が離れていくことです。実際には「やっと中学生」「まだ中学生」まだまだ大人の見守る目が必要な世代です。「やり場のない思い」を抱えて攻撃的な一面を見せる一方で、学校や地域の方の声には耳を傾ける素直な一面もあります。反抗期を迎えた子どもたちを家庭だけで支えていくことはとても大変です。今後、五中PTAの活動が五中生と保護者の心の支えになるような団体になればいいなと思います。

### 中原小オヤジの会



中原小オヤジの会は、子どもたちの感染の危険性だけでなく、広げてしまう可能性も考慮しまして、メイン企画である「チャレンジキャンプ」、各学年イベントも中止という判断をいたしました。

それでも何か! オヤジたち、先生方と相談を重ね、今年度唯一「ランタンで校庭にアマビエを描こう!」を行えました。点火の様子は配信のみでしたが、2020年度の思い出にと思います。2021年度は、「コロナ禍でもできる工夫はないか」と切り替えて、子どもたちの思い出になるイベントを検討しています。大人の学校参加のきっかけとなる活動を続けていけるよう頑張ろうと思っています。鷹南学園のみなさま、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

### 東台小おやじの会

東台小おやじの会は、コロナの流行に伴い、子どもたちや会員の安全を最優先として、従来の活動を中止・自粛せざるを得ない状況でした。そのため、残念ながらおやじの会で主催していましたサマーキャンプを中止することとなりました。そんな中でも、運動会や思い出コンサート、ランタンイベントで新しくYouTubeによる配信で子どもたち・家族の皆さまの学校の思い出つくりの活動を行い、また、新入生に向けての屋上見学イベントも実施しました。活動の中で、中原小オヤジの会や鷹南学園の諸団体の皆さまとの交流が深まりました。来年は何らかの形で今年参加できなかった子どもたちも含めて、楽しんでもらえる活動を再開したいと思っています。



### 五中おやじの会



五中おやじの会は、活動の柱としている例年3月開催の「鷹南祭」が、コロナにより2年連続で中止せざるを得ませんでした。楽しみな行事の一つなので残念でなりません。そのような中、技術室不要機材の撤去など、PTA・SSとの協働のもと、おやじたちの力を結集して環境整備に協力できたこと、また、校長先生依頼による土曜登校見守り活動では、僅かながらも五中生との接点を持てたことは、幸いだったと思います。来年度は、引き続き五中・五中生のための支援活動を継続し、コロナが完全に解消されないことも想定した新しい形の「鷹南祭」を、五中生・先生方と協議し、作っていきたくと希望しております。また、各行事の手伝いなど、地域活動にも貢献したいです。

### 漢検PJ

毎年恒例になっている「みんなで漢検!」は、今年度のコロナ禍の開催に際し、小学5・6年生と五中生のみの対象に絞り募集をしました。結果的に緊急事態宣言が下され1月の開催は中止となってしまいました。126名の申し込み者へは、6月26日に振替受検をしていただく予定です。高校受験などの取り組みの一つとして定着しつつある漢検ですが、今後もCSでは、コロナ対策も併せて身近な場所を受検できるように努めていきます。

### カレンダーPJ

今年度から始まった学園カレンダープロジェクト。「子どもにも大人にも楽しんでもらえるもの」となるよう、昔と今の鷹南地区の写真を集めました。五中建設前のツムラ草園、はちのすけ運搬中、東台植樹シーン、丸池、牧場など。そして今年はオリンピックの年。1964年の東京オリンピックで甲州街道を走ったアベベも! 答えはホームページにて! またCSに所属している団体やCSについても紹介していますので、ご覧ください。

### 鷹南コンサートPJ

今年度は例年通りの開催が不可能なため「オンライン鷹南コンサート」として、中原小合唱団・東台小金管バンド・五中吹奏楽部の演奏を鷹南地域限定でYouTube配信いたしました。ご協力いただきました各部顧問の先生始め、関係者の皆さまありがとうございました。URLはフェアキャストにて配信済み、期間は2021年3月31日までです。皆さま、お見逃しなく!!

### サポート部

「社会を生き抜いてきた地域の大人の力を子どもたちに繋げます!」

今年度のサポート部はコロナ禍のため、児童・生徒のサポートや体験の機会がなく、これからの10年に向けた活動について検討しています。学園開園当時、保護者と地域の「こんな大人になってほしい!」という思いを「ジャンプアッププラン・生きる育みプログラム」という形にし、漢字検定、異文化交流、メンタルトレーニングなど実施してきました。この10年で、生きる力と知恵を身につける体験をした卒業生は1,000人を超え、地域のサポーターとして学園生を支えてくれる卒業生も出てきました。これからの10年は企画に参加した子どもたちだけでなく、総合的学習のような授業を通して、保護者を含めた学園生全員と経験豊かな地域の大人の関わりが持てるようなサポートを目指していきたいと考えています。

### 評価部

今年のCS評価部による学園評価アンケートは、このコロナ禍を機に初めてWEBアンケートで実施いたしました。皆さまいかがでしたでしょうか。マークシートや自由記述の集計を今までよりも迅速に行うことができ、早い段階で学園や各学校にフィードバックすることができました。さらに評価部内でアンケート結果に対する考察を行い、今回のCS広報紙に掲載させていただきました。皆さまの心温まる励ましや、耳の痛いご指摘全ては、鷹南学園をよりよくするための声として必要不可欠なものですので、来年度もたくさんのお声をアンケートにお寄せいただくと幸いです。

### 広報部

今年度はコロナの緊急事態宣言のもと、一学期の学校授業がなくなり、地域や学園の行事がほとんど中止となりました。未曾有の状況下で、鷹南学園の広報は、何を皆さまにお伝えするべきかを模索しました。その結果、CS委員会だより第1号は「学園の先生たちを子どもたち・保護者につたえる」第2号は「学校や学園の諸団体の活動・想いをつたえる」ことをテーマとしました。2号の取材の中で学校や諸団体が新しい活動に取り組む意気込みを多数お聞きしました。来年度は、その結果をお伝えしたいと思っています。

## 退任者挨拶

星野 利子 青少対中原地区委員



中原青少対の会長の職を通して、平成25年にCS委員に任命され8年が経ち、月日の流れの早さに驚いています。何もわからず戸惑うことも多くありましたが、行事(手打ちうどん、漢字検定、鷹南祭など)に携わり、楽しくお手伝いできました。また、たくさんの方々とお知り合いになり、皆さまからいろいろ教えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。8年間の思い出は私の宝物です。お世話になりました。これからも陰ながら鷹南の子どもたちを見守っていきたくと思います。

本田 ハツ江 交通対中原地区委員

CSをなかなかすべて理解できずに、少しでも協力できたのか・・・の8年間でした。それでも小・中学の交流が以前にも増して児童にも保護者にも見えやすくなったのではと感じるようになっていました。これからも地域として、子どもたちを見守っていきたくと思っています。



國中 弥生 丸池の里わくわく村



この春で丸8年。末っ子が高学年になったタイミングで中原小PTA会長としてCS委員になりました。それまでの私は、3人の子育てと仕事の両立に苦労していましたので、地域活動はお手伝い程度。学校のことに特別詳しいわけではありませんでした。そんな私がCS活動を通じてたくさんの方と関わり、ボランティアについて学び、子どもたちのことを考え、学校と一緒にさまざまな取り組みに参加できたことは、とても有意義でキラキラした時間でした。そして話し合うこと、丁寧な合意形成の大切さを学びました。今後は地域のおばさんとして、また丸池の村人として子どもたちとふれあい、育みのお手伝いをさせていただければと思っています。8年間、ご指導いただいた諸先輩方とご協力くださった皆さんに心から感謝いたします。ありがとうございました。